

ちよつといひ話

～ 今を生きる ～

「弱肉強食」、こんな言葉で片づけてしまっていていいのでしょうか？殺伐とした精神状態の人が何人ぐらいおり、どんな生活をしているのだろうか？その自覚すら無いのではなからうか、世の中は多種多様で複雑極まりなく、混迷を深めています。それではまず私達の食文化を考え、試してみます。私達は大抵一日に三度食事をとり、私達が食するもの肉、魚はもちろん野菜、味噌、醤油等、全て、その命を奪って、我々人間様が生きて行く為に、深く考える事も無く、毎日の生活手段となっています。人間様の血となり、肉となれば、殺された物は浮かべられるのだろうか？考える必要も無いのだろうか？「弱肉強食」も一つの形であり、病気で死ぬ人は病気に負けたのである。人間が逆に食べられた、そして救われたと言う事になります。佛教では因果応報と説明しています。各家庭で食事を始める前に、必ず感謝の気持ちを込めて戴きます、と言ってほしいのです。天地の恵みを始め、先ほど申し上げた様に色々な物の命を戴くのですから、忘れる事はすなわち我々の生命を軽んじる事になるのです。佛教では六道輪廻と言います。地獄から天人までの六階級を行ったり来たりしています。それは因縁によります。因縁とは結果がでるからには必ず原因がある、と言う事であり、結果に不満があれば、その原因を修正すればよいのである。階級の下の方が上のものの犠牲になるのは当然の事となるのです。然しながら、上のものは下のものにいたわりとやさしさをもたなくてははいけません。北朝鮮では飢餓の状態が続いています。六道で言うと、餓鬼の境涯です。餓鬼に手を差し伸べるのも人間としての勤めです。佛教では過去におこなった善と悪の結果に因り現在の境遇になっているのだと教えています。だから苦しみも享受しなくては次の生も、又苦しみを受ける事になってしまうのです。現在では volunteer とその活動と呼んで

いですが、お釈迦様の時代から既にあり、「布施行」とい、大事な行の一つです。僧侶の法礼としてのお布施もそうです。四国八十八ヶ所を巡拝した有名な人に八坂の衛門三郎と言う豪庄がいました。強欲非道な人でても評判が悪かったので弘法大師様は衛門三郎の所業を哀れみ心を変えさせようと托鉢にて門付された時に、衛門三郎は鉄鉢を取り上げ叩き割ってしまったのです。その鉄鉢は八つに割れ飛び散りました。その翌日から衛門三郎の八人の子供が次々に死んでしまったのです。悲しい結果にその原因が自分の強欲非道にあった事を悟り、弘法大師様に謝り、そして、お礼が言いたくて、財産を捨て、お大師様の後を追って亡くなるまで四国八十八ヶ所を巡拝されたのです。気の毒な方に手を差し伸べる事が出来れば菩薩行です。今の福祉は他人の禪で相撲を取る人、即ち、怠け者を少なからず養成していると言えま。怠け者を助ける事、それは大変難しいのです。釈尊の時代にも強欲非道の長者がいました。蓋（がっか）とい、衛門三郎がお大師様に救われた如く、蓋は釈尊の教えに従い一光三尊善光寺如来様を帰依し救われたのです。今を生きる私達は夢と希望を持って生きて行くのは当然の事です。然しながら、目的達成の爲なら形振り構わず、非人道的行動をも厭わず、と言う人は終いには仏様に見放され、夢幻の如しで終わる事になります。私達は毎日の生活の中で、身、口、意の三業（さまんごう）を特に気お付けなくはいけません。即ち、この身体は仏様から戴いたのであり、私の口は本来仏様が法を説く爲の口であり、心が仏心で充満していれば、極楽の生活が出来るのです。争いの無い世界に、信仰者と楽して、今を生きようではありませんか！そのうち、そのうち、では佛縁は益々遠のき、気がつけば身体も利かず、四大不調に落ちいるのです。何事も今のうち、今のうち、と思いを決める事が大事です。

衆善奉行なり。

善入院油掛地藏尊